

テモテへの後の書

第一章

一 神の御意により、キリスト・イエスにある生命の約束に循ひて、キリスト・イエスの使徒となれり賜ふ恩恵と憐憫と平安と、汝に在らんことを。
 二 書を我が愛する子テモテに贈る。願くは父なる神および我らの主キリスト・イエスよ

三 われ夜も晝も祈の中に絶えず汝を思ひて、わが先祖に效ひ清き良心をもて事ふる神に感謝す。四 我なんぢ

の涙を憶え、わが歡喜の満ちん爲に汝を見んことを欲す。五 是なんぢに在る虚偽なき信仰をおもひ出すに因りて

なり。その信仰の曩に汝の祖母ロイス及び母ユニケに宿りしごとく、汝にも然るを確信す。六 この故に、わが

按手に由りて汝の内に得たる神の賜物をますます熾んにせんことを勸む。七 そは神の我らに賜ひたるは、臆する

靈にあらず、能力と愛と謹慎との靈なればなり。八 されば汝われらの主の證をなす事と主の囚人たる我とを恥と

すな、ただ神の能力に隨ひて福音のために我とともに苦難を忍べ。九 神は我らを救ひ聖なる召をもて召し給へ

り。是われらの行爲に由るにあらず、神の御旨にて創世の前にキリスト・イエスをもて我らに賜ひし恩恵に由る

なり。一〇 この恩恵は今われらの救主キリスト・イエスの現れ給ふに因りて顯れたり。彼は死をほろぼし、福音を

もて生命と朽ちざる事とを明かに爲給へり。二 我はこの福音のために立てられて宣傳者・使徒・教師となれり。

三 之がために我これらの苦難に遭ふ。されど之を恥とせず、我わが依頼む者を知り、且わが委ねたる者を、かの

イ 哥前一・二を見よ	リ 羅一・八を見よ	レ 哥前一・六を見よ	ム 羅一・二九を見よ	マ 哥前一・二六を見よ
ロ (提前六・一九)	ヌ (徒二〇・三七)	ソ 弗三・二を見よ	ウ 羅八・二八、二九を見よ	ヤ (來二・二四、一五)
ハ 哥後一・二を見よ	ル (提後四・九、二二)	ツ 提後一・二六	井 弗二・九を見よ	ケ 提前二・七を見よ
ニ 提前二・二 提後二・一 多一・四	ヲ 徒一・五	ク 提後一・二二、一六 (可八・三八 羅一・一六)	ノ 羅八・二八、二九	フ 提後一・八を見よ
ホ 提前二・二	カ 提前四・一四を見よ	ネ 提後二・一〇、二・八	オ 羅一・二五を見よ	ク 提後一・二六
ヘ 羅一・九を見よ	コ 提前四・一四	ナ 提後二・三、九、四	カ 提後二・二五を見よ	コ 提後二・一四 提前六・二〇
ト 徒二・三・一を見よ	タ 羅八・二五 (約一四・二七)	チ 徒一・二四を見よ	リ 羅一・二四を見よ	ニ 提後二・一八、四、八 哥前三・二三及
チ 徒二四・一四				ビ 一・八を見よ

三 日に至るまで守り得給ふことを確信すればなり。一三 汝キリスト・イエスにある信仰と愛とをもて、我より聴きし健全なる言の模範を保ち、一四 かつ委ねられたる善きものを、我等のうちに宿りたまふ聖靈に頼りて守るべし。

一五 ア ज्याに居る者みな我を棄てしは、汝の知る所なり、その中にフゲロとヘルモゲネとあり。一六 願くは主オネシポロの家に憐憫を賜はんことを。彼はしばしば我を慰め、又わが鎖を恥とせず。一七 そのロマに居りし時には懇ろに尋ね來りて遂に我に逢ひたり。一八 願くは主かの日にいたり主の憐憫を彼に賜はんことを、彼がエペソにて我に事へしことの如何許なりしかは、汝の能く知るところなり。

第二章

一 わが子よ、汝キリスト・イエスにある恩恵によりて強かれ。二 且おほくの證人の前にて我より聴きし所のことを他の者に教へ得る忠實なる人々に委ねよ。三 汝キリスト・イエスのよき兵卒として我とともに苦難を忍べ。四 兵卒を務むる者は生活のために纏はるる事なし、これ募れる者を喜ばせんと爲ればなり。五 技を競ふ者、もし法に隨ひて競はずば冠冕を得ず。六 勞する農夫まづ實の分配を得べきなり。七 汝わが言ふ所をおもへ、主なんぢに凡ての事に就きて悟を賜はん。八 わが福音に云へる如くダビデの裔にして死人の中より甦へり給へるイエス・キリストを憶えよ。九 我はこの福音のために苦難を受けて惡人のごとく繋がるるに至れり、然れど神の言は繋かれたるにあらず。一〇 この故に我えらばれたる者のために凡ての事を忍ぶ。これ彼等をして永遠の光榮と共にキリスト・イエスによる救を得しめんとてなり。二 爰に信すべき言あり「我等もし彼と共に

- イ 提前一・一四を見よ
- ロ 提後二・二
- ハ 提前二・一〇
- ニ 羅二・二〇、六・一
- ホ 提後三・一四多一
- ヘ 羅八・九を見よ
- ト 徒二・九を見よ
- チ 提後四・一〇、一
- リ 提後四・一九
- ヌ 弗六・二〇を見よ
- ル 提後一・八を見よ
- ヲ 提後一・二二
- ワ 徒一八・一九を見よ
- カ 提後一・二を見よ
- コ 弗六・一〇 提後四
- タ 提前六・二二
- レ 提後一・二三
- ソ 提前一・二三
- ツ 提前一・一八
- ネ 哥前九・七 提前一
- ナ 提後一・八を見よ
- ラ 提後二・二〇
- ム 哥前九・二五を見よ
- ウ 哥前九・二〇 來六
- エ 羅二・一六を見よ
- ノ 太一・一を見よ
- ハ 提後一・八を見よ
- ク 提後一・八を見よ
- コ 路一八・七を見よ
- エ 西一・二四
- ヤ 路二三・三二
- マ 勝一・七を見よ
- ケ 提前一・八を見よ
- フ 徒二八・三一 提後
- 四 一・一七
- ク 路一八・七を見よ
- エ 西一・二四
- チ 哥後四・一七 後前
- 五 一・一〇
- ア 哥前二・二二を見よ
- サ 提前一・一五を見よ
- キ 羅六・八を見よ
- （撒前五・一〇）

ユ太一九・二八 シ民三三・一九 多一 雅一・二八
(路二二・二九 羅五 二 提前六・四を見よ 雅一・二八
二七、八・一七) 二 提前六・四を見よ 雅一・二八
太一〇・三三を見よ (提後二・二三 多三 提前六・四を見よ
提前五・八 九) 提前五・二一を見よ 雅一・二八
多三・三 多一・二 提前五・二一を見よ 雅一・二八
多三・三 多一・二 提前五・二一を見よ 雅一・二八

死にたる者ならば、彼と共に生くべし。三もし耐へ忍ばば彼と共に王となるべし。若し彼を否まば、彼も我らを

否み給はん。二三我らは眞實ならずとも、彼は絶えず眞實にまませり、彼は己を否み給ふこと能はざればなり」

一四汝かれらに此等のことを思出さしめ、かつ言争する事なきやう神の前にて嚴かに命ぜよ、言争は益なくし

て聞く者を滅亡に至らしむ。一五なんぢ眞理の言を正しく教へ、恥づる所なき勞働人となりて神の前に鍊達せる者

とならんことを勵め。一六また妄りなる虚しき物語を避けよ。斯る者はますます不敬虔に進み、一七その言は脱疽の

ごとく腐れひろがるべし、ヒメナオとピレトとは斯のごとき者の中にあり。一八彼らは眞理より外れ、復活ははや

過ぎたりと云ひて或る人々の信仰を覆へすなり。一九されど神の据ゑ給へる堅き基は立てり、之に印あり、記して

曰ふ「主おのれの者を知り給ふ」また「凡て主の名を稱ふる者は不義を離るべし」と。二〇大なる家の中には金銀

の器あるのみならず、木また土の器もあり、貴きに用ふるものあり、また賤しきに用ふるものあり、二一人もし賤

しきものを離れて自己を潔よくせば、貴きに用ひらるる器となり、淨められて主の用に適ひ、凡ての善き業に備へ

らるべし。二三汝わかき時の慾を避け、主を清き心にて呼び求むる者とともに義と信仰と愛と平和とを追求めよ。

二三愚なる無學の議論を棄てよ、これより分争の起るを知ればなり。二四主の僕は争ふべからず、凡ての人に優しく

能く教へ忍ぶことをなし、二五逆ふ者をば柔和をもて戒むべし、神あるひは彼らに悔改むる心を賜ひて眞理を悟ら

せ給はん。二六彼ら一度は悪魔に囚れたれど、醒めてその羂をのがれ神の御意を行ふに至らん。

第三章

一 されど汝これを知れ、末の世に苦しき時きたらん。二 人々おのれを愛する者・金を愛する者・誇
 るもの・高ぶる者・罵るもの・父母に逆ふもの・恩を忘るる者・潔からぬ者、三 無情なる者・怨を
 解かぬ者・譏る者・節制なき者・殘刻なる者・善を好まぬ者、四 友を賣る者・放縱なる者・傲慢なる者・神よりも
 快樂を愛する者、五 敬虔の貌をとりてその徳を捨つる者とならん、斯る類の者を避けよ。六 彼らの中には人の家
 に潜り入りて愚なる女を擄にする者あり、斯くせらるる女は罪を積み重ねて各様の慾に引かれ、七 常に學べども
 眞理を知る知識に至ること能はず。八 彼の者らはヤンネとヤンブレとがモーセに逆ひし如く、眞理に逆ふもの、
 心の腐れたる者、また信仰につきて棄てられたる者なり。九 されど此の上になほ進むこと能はじ、そはかの二人
 のごとく彼らの愚なる事も亦すべての人に顯るべければなり。一〇 汝は我が教誨・品行・志望・信仰・寛容・愛・
 忍耐・迫害、および苦難を知り、二 またアンテオケ、イコニオム、ルステラにて起りし事、わが如何なる迫害を
 忍びしかを知る。主は凡てこれらの中より我を救ひ出したまへり。三 凡そキリスト・イエスに在りて敬虔をもて
 一生を過さんと欲する者は迫害を受くべし。四 惡しき人と人を欺く者とは、ますます惡にすすみ、人を惑し、
 また人に惑されん。五 然れど汝は學びて確信したる所に常に居れ。なんぢ誰より之を學びしかを知り、六 また
 幼き時より聖なる書を識りし事を知ればなり。この書はキリスト・イエスを信する信仰によりて救に至らしむる
 智慧を汝に與へ得るなり。一六 聖書はみな神の感動によるものにして教誨と譴責と矯正と義を薰陶するとに益あ

イ 提前四・二を見よ
 ロ (解三・二二)
 ハ (路一六・二四 提前
 三・三、六・一〇)
 ニ (彼後二・一〇—
 二二)
 ヘ 路六・三五
 ト 提前一・九
 チ 羅一・二一
 リ 提前三・一一を見よ
 ヌ (多一・八)
 ル 徒七・五二
 テ 徒一九・三六
 ワ 提前三・六を見よ
 カ (解三・一九)
 コ 提前四・七
 タ (羅二・二〇)
 レ 提前五・八を見よ
 ソ 提後三・六を見よ
 (太七・一五)
 ツ 猶四を見よ
 ネ (撒前五・六 多三・
 三)
 ノ 出七・二二、八・九、
 一
 ナ 多三・三
 ラ 提後二・二五
 ム (卅七・一一)
 ウ (徒一三・八)
 井 提前六・五
 出七・二二、八・九、
 一
 マ 哥後二・一〇
 ケ 徒一三・一四、四五、
 五〇を見よ
 フ 徒一四・五を見よ
 コ 徒一四・一九を見よ
 エ (哥後二・二三—
 二七)
 テ 羅一五・三一を見よ
 ア 約一五・二〇を見よ
 徒一四・二二 哥後
 四・九
 コ 徒一四・一九を見よ
 サ (提後二・一六)
 キ (多三・三)
 エ (提後一・二三)
 ヌ (提後一・二三)
 メ (提後一・五)
 ミ (約五・四七)
 シ 哥前二・二二を見よ
 ア 詩一九九八、九
 ヒ 羅四・二三、四を
 見よ 羅一五・四を
 彼後一・二〇、二二

モ提前六・二一 撒前二・一六
 セ提後三・二一 多三・ 二提後三・一〇
 一 來一三・二一 ホ提前五・二〇 多一
 ス徒一〇・四二を見よ 二・三、二・二五
 イ撒後二・八を見よ へ提前一・一〇を見よ
 ロ提前五・二一を見よ ト(撒後二・二一 多一
 ハ加六・六 西四・三 二・一四)

子提前一・四を見よ
 リ提前一・六
 ヨ腓二・一七
 タ(腓一・二三 彼後一
 ・一四)
 ネ 哥前九・二五を見よ
 (提後二・五 來一二
 ・二一)
 井 西四・一四を見よ
 ノ 提前六・一七を見よ
 オ 徒一七・一を見よ
 ク 徒一六・六を見よ
 ヤ 哥後三・二三を見よ
 マ(提後一・一五)

ケ 西四・一四を見よ
 フ 徒一二・一二を見よ
 コ(西四・一〇 提後
 二・二二)
 エ 徒二〇・四を見よ
 テ 徒一八・一九を見よ
 ア 徒一六・八を見よ

サ 提前一・二〇(徒一
 九・二三)
 キ 羅一二・一九 羅二
 ・六
 ユ 徒七・六〇 (哥前
 一三・五)

一七 一七 これ神の人の全くなりて、諸般の善き業に備を全うせん爲なり。

第四章

一 われ神の前また生ける者と死にたる者とを審かんとし給ふキリスト・イエスの前にて、その顯現と御國とおもひて嚴かに汝に命ず。ニなんぢ御言を宣傳へよ、機を得るも機を得ざるも常に勵め、

二 寛容と教誨とを盡して責め、戒め、勧めよ。三人々健全なる教に堪へず、耳痒くして私慾のまにまに己がために

三 教師を増加へ、耳を眞理より背けて昔話に移るとき來らん。五されど汝は何事にも慎み苦難を忍び、傳道者

四 の業をなし、なんぢの職を全うせよ。六我は今供物として血を灑がんとす、わが去るべき時は近づけり。七わ

五 れ善き戰鬥をたたかひ、走るべき道程を果し、信仰を守れり。八今よりのち義の冠冕わが爲に備はれり。かの日

六 に至りて正しき審判主なる主、これを我に賜はん、雷に我のみならず、凡てその顯現を慕ふ者にも賜ふべし。

七 九なんぢ勉めて速かに我に來れ。一〇デマスは此の世を愛し、我を棄ててテサロニケに往き、クレステンスは

八 ガラテヤに、テトスはダルマテヤに往きて、一唯ルカのみ我とともに居るなり。汝マルコを連れて共に來れ、彼

九 は職のために我に益あればなり。二我テキコをエペソに遣せり。三汝きたる時わがトロアスにてカルボの許に遺

一〇 し置きたる外衣を携へきたれ、また書物、殊に羊皮紙のものを携へきたれ。一四金細工人アレキサンデル大に我を

一一 惱せり。主はその行爲に隨ひて彼に報いたまふべし。一五汝もまた彼に心せよ、かれは甚だしく我らの言に逆ひた

一二 り。一六わが始の辯明のとき誰も我を助けず、みな我を棄てたり、願くはこの罪の彼らに歸せざらんことを。一七さ

レど主われと偕に在して我を強めたまへり。これ我によりて宣教の全うせられ、凡ての異邦人のこれを聞かん爲なり。而して我は獅子の口より救ひ出されたり。一八また主は我を凡ての悪しき業より救ひ出し、その天の國に救ひ入れたまはん。願くは榮光、世々限りなく彼にあらん事を、アァメン。

一九汝プリスカ及びアクラ、またオネシポロの家に安否を問へ。二〇エラストはコリントに留れり。トロピモは病ある故に我かれをミレトに遣せり。二二なんぢ勉めて冬のまへに我に來れ、ユプロ、プデス、リノス、クラウデヤ、及び凡ての兄弟、なんぢに安否を問ふ。

二三願くは主なんぢの靈と偕に在し、御惠なんぢらと偕に在らんことを。

テモテへの後の書 をはり

イ 提前一・一二を見よ 亦 詩二二・二二 (母前) 五・五〇 來一・一 又 徒一八・二を見よ ヨ 提後四・九を見よ
 (提後二・一) 一七・三七 彼前五 六、一二・二二 彼 ル 提後一・二六 タ (多三・一二)
 口 多一・三 八) へ 羅一五・三二を見よ チ 哥前二・二二を見よ ヲ 徒一八・二を見よ 二二三 門二五
 ハ (提後四・五) ト (提後四・一) 哥前一 一 羅一・三六を見よ カ 徒二〇・一五を見よ ソ 西四・一八を見よ
 二 徒九・一五を見よ

一・一二 或は「我に」を譯す。